

厚南中学校学校便り

平成23年2月(2)

○ よりよい学校づくりをめざすため、学校が設定した目標の達成状況进行评估する学校関係者評価委員会を実施しました。

2月1日(月)本校校長室において学校評議員及びPTA会長・副会長からなる学校関係者評価委員会を実施しました。この学校関係者評価は、学校が教育活動等について設定した目標への取組の様子や達成状況について話し合い評価するものです。また、学校評価の結果を公表・説明することで、学校・家庭・地域の連携・協力によるよりよい学校づくりをめざす取組です。

【昨年度の評価と課題をふまえて】

- ①学習指導については、昨年度、基礎学力の定着のために、学びあいを取り入れた学習指導に力を入れ、わかる喜びを高める授業の実践を行い、小グループの活動や授業評価に力を入れた。今後は生徒や保護者の理解は深めるとともに、研修を通して授業改善を図る。
- ②生徒指導については、チャレンジ目標の達成や学校生活が楽しい生徒が80%以上であるなど、ある程度達成できているが、組織で課題を解決する力が不足していたり、いじめの根絶に向けた意識を高める必要がある。
- ③人権教育については、すべての教育活動の基盤として取り組んでいるが、人権に関する行事の保護者の参加率が低い。今後は、人権に配慮した対応に一層力を入れるとともに、学校へしっかりと足を運んでいただくように地域や保護者と連携を図りたい。

【本年度の重点目標に対する分析と評価】(評価はA～Dの4段階)

○学びあいのある学習指導の充実(自己評価:C 学校関係者評価:B)

《自己評価》

- ・学びあいのある授業づくりに取り組んできたが、授業がわかるが76%、授業が楽しみが66%であった。今後は、100%を目指した授業づくりが必要である。

《学校関係者からの意見要望》

- ・「授業がよく分かる」は、そう思う28%、ややそう思う48%からすると評価はBでもよいのではと思う。しかし、あと24%の生徒がどうすれば76%の中に入るのか四人組の活用を工夫する必要がある。

○組織で動く生徒指導の実践(いじめ問題の根絶)(自己評価:C 学校関係者評価:B)

《自己評価》

- ・組織で動くために報告・連絡・相談に力を入れ、自己評価で「情報が共有され、共通理解のもと協力して指導を行っている」の項目で評価ポイントが3.3でありおおむね達成できたが、いじめが5件発生しており、いじめの根絶が今後の課題である。

《学校関係者からの意見要望》

- ・チャレンジ目標三点は生活習慣、チェックポイントの両面から大切と思う。マンネリ化を防ぎ、日常から自発的な方向付けをしてほしい。また、生徒活動を全面にして、励ましながら自治力をつけてほしい。
- ・いじめの発生件数が5件不登校が数名いるのは残念ですが、先生のお話ではいじめもそれほど悪質なものではなく不登校の生徒の少しでも学校に顔を出せるということでした。まだ、表に出ないいじめもあると思います。これからも生活アンケートや悩みの調査などを実施され、SCと担当、担任との連携を密にしてほしい。

○すべての教育活動の基盤としての人権教育の推進(自己評価:B 学校関係者評価:A)

《自己評価》

- ・教職員の人権に配慮した対応への評価が、保護者81%、生徒78%であり、教育活動の基盤として機能している。また、人権に関する行事への参加者も増えてきている。ただし、この行事をマンネリ化しないように工夫していく必要がある。

《学校関係者からの意見要望》

- ・誇るに足る本校の特色、実践、教育の今日課題、教育そのものの基盤である。先生が学校生活の中で何事にも生徒への対応で人権に配慮しておられるのがよく分かります。

【次年度への改善策】

○学習指導

- ・学びあいのある授業を深めるために、教師の課題設定や四人組の活用に力を入れる。そのために、月1回の校内研修を充実したものにする。

○生活指導

- ・いじめの根絶のために生徒の力を活用した生徒指導(生徒会活動の活性化)に取り組む。

○人権教育

- ・人権に関する行事のマンネリ化を防ぐために、人権主任だけでなく学年の人権担当を巻き込んだ企画運営に力を入れる。